

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成23年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成23年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 23 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 149 企業

2. 調査対象期間

平成 23 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 23 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	25
小 売 業	44
サービス業	47
合 計	149

5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 23 年 1 月～3 月)の調査において、産業全体の業況D Iは、前期より 0.6 ポイント改善し△39.1 (前期△39.7) となった。

産業別にみると、リーマンショック後低迷していた小売業が△40.0 (前期△53.8) と 13.8 ポイント改善し、サービス業は△50.0 (前期△51.1) と 1.1 ポイントと若干の改善がみられたが、建設業は△32.0 (前期△16.6) と 15.4 ポイント、製造業が△28.1 (前期△24.3) と 3.8 ポイント悪化した。

ただし、今回の調査は調査時点が 3 月 1 日のため、3 月 11 日に発生した「東日本大震災」の影響が反映されておらず、3 月末の実態としては、被災後、建物や設備の損壊のみならず、電気、水道、燃料等の供給が止まり、多くの工場等が操業停止に追い込まれ、小売業においても流通経路が寸断され休業状況となるなど、産業全体に大きな影響が生じている。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事) D Iは、製造業においては 8.1 ポイント、サービス業が 4.2 ポイント改善し、反面、小売業は△3.5 ポイント、建設業においては△28.0 ポイントと大きく下降し、全産業のD Iは△40.4 (前期△37.7) と 2.7 ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iは、小売業が 19.7 ポイント、製造業が 12.6 ポイント、建設業が 8.0 ポイント改善したが、サービス業は 5.5 ポイント悪化し、全産業のD Iは△42.5 (前期△50.4) と 7.9 ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業は前回と比較し 6.8 ポイント、小売業は 2.3 ポイント増加したが、建設業は 4.0 ポイント、サービス業は 2.1 ポイント減少し全体として低調に推移している。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事）D I は、前期大幅な改善を見せた宮城の建設業が△24.0（前期4.0）となり28.0ポイント悪化し、前期の改善幅が解消され、全国D I △25.2と近似した。

宮城の製造業、サービス業においてはD I が8.1ポイント、4.2ポイント改善し、全国D I との乖離幅も縮小したが、小売業は△58.0（前期△54.5）と3.5ポイント悪化し、全国D I との乖離幅も拡大した。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 16.8	△ 14.0	△ 17.5	△ 23.5	△ 20.6	△ 12.5
建 設 業	△ 29.4	△ 25.2	△ 26.2	△ 24.6	4.0	△ 24.0
小 売 業	△ 49.4	△ 46.3	△ 53.1	△ 54.3	△ 54.5	△ 58.0
サービス業	△ 37.7	△ 41.4	△ 42.1	△ 40.0	△ 56.5	△ 52.3

② 採 算

採算D I は、全国のD I と東北のD I が製造業、建設業がわずかに改善し、小売業、サービス業が若干悪化した。

宮城の採算D I は製造業12.6ポイント、建設業8.0ポイント、小売業19.7ポイント改善し全国D I との乖離幅が縮小し、製造業、小売業は全国、東北を上回った。サービス業は5.5ポイント悪化し全国、東北との乖離幅も拡大した。

表二 採算の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 26.7	△ 25.8	△ 30.1	△ 28.5	△ 38.3	△ 25.7
建 設 業	△ 38.7	△ 36.6	△ 41.8	△ 41.2	△ 48.0	△ 40.0
小 売 業	△ 45.8	△ 47.5	△ 50.7	△ 55.5	△ 62.8	△ 43.1
サービス業	△ 39.4	△ 42.3	△ 44.3	△ 47.3	△ 48.8	△ 54.3

(3) 今後の見通しについて

※「東日本大震災」以前に想定した見通しである。

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上（完成工事）D I の来期見通しは、小売業が 8.0 ポイント改善すると予測されたが、その他の産業は製造業が 13.3 ポイント、建設業が 12.0 ポイント、サービス業が 4.3 ポイントといずれも悪化すると予測された。

採算D I の来期見通しについては建設業 8.0 ポイント、サービス業 7.6 ポイント好転し、製造業 1.9 ポイント、小売業 6.9 ポイント悪化すると予測された。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上（完成工事）D I の来期見通しは、全国のD I より宮城の建設業が 0.9 ポイント上回るが、製造業 7.7 ポイント、小売業 5.6 ポイント、サービス業 20.2 ポイント下回ると予測された。

採算D I の来期見通しは、全国D I より宮城の建設業が 6.3 ポイント上回るが、製造業は 2.7 ポイント、小売業は 5.9 ポイント、サービス業も 9.5 ポイント下回ると予測された。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し（D I 値）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 14.0	△ 18.1	△ 12.5	△ 25.8
建 設 業	△ 25.2	△ 36.9	△ 24.0	△ 36.0
小 売 業	△ 46.3	△ 44.4	△ 58.0	△ 50.0
サービス業	△ 41.4	△ 36.4	△ 52.3	△ 56.6

表－4 採算来期見通し（D I 値）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 25.8	△ 24.9	△ 25.7	△ 27.6
建 設 業	△ 36.6	△ 38.3	△ 40.0	△ 32.0
小 売 業	△ 47.5	△ 44.1	△ 43.1	△ 50.0
サービス業	△ 42.3	△ 37.2	△ 54.3	△ 46.7

2. 県下産業別の景況

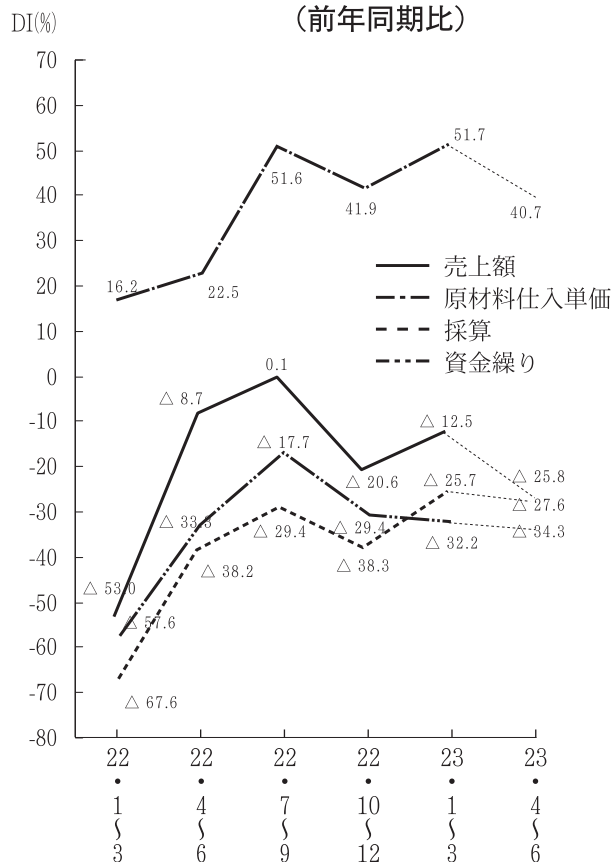
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（加工）額DIは、今期△12.5（前期△20.6）となり8.1ポイント、採算DIも△25.7（前期△38.3）と12.6ポイント改善した。

反面、資金繰りDIは△32.2（前期△29.4）と前期比2.8ポイント下降し、原材料仕入単価も51.7（前期41.9）と9.8ポイント上昇した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



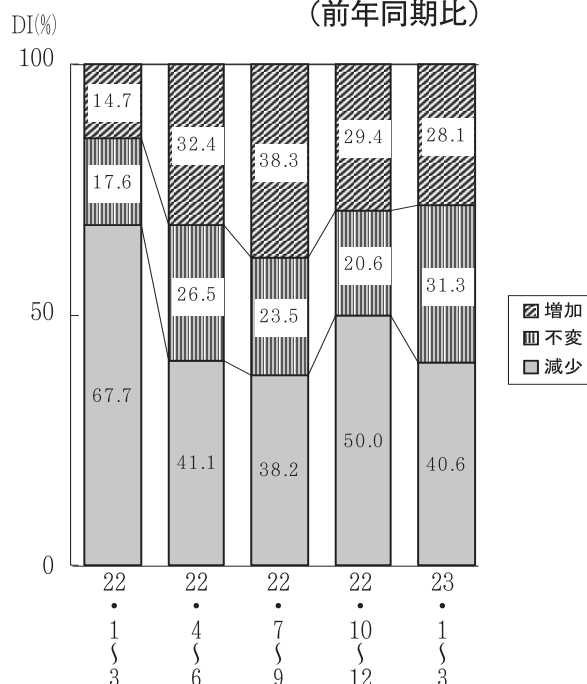
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の28.1%（前期29.4%）で前期比1.3ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業も40.6%（前期50.0%）と前期比9.4ポイント減少した。

結果として売上（加工）額DIは△12.5（前期△20.6）となり前期比8.1ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

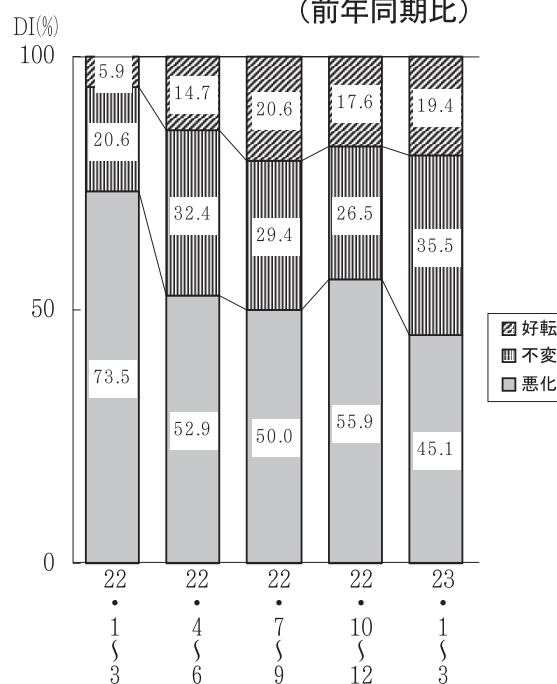


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の19.4%(前回17.6%)で1.8ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は45.1%(前回55.9%)で10.8ポイント減少した。

その結果、採算DIは△25.7(前期△38.3)となり12.6ポイント改善した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



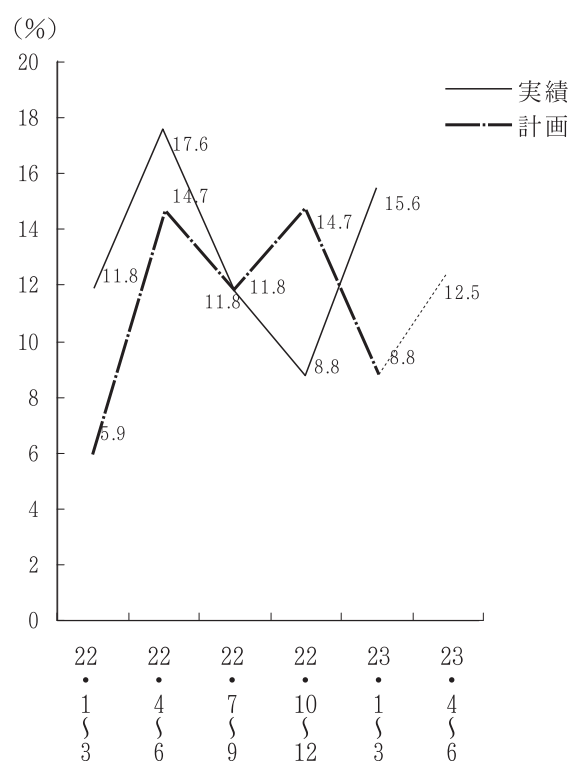
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の15.6%(前期8.8%)で6.8ポイント増加した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、車両運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の12.5%で、その設備内容は、生産設備、車両運搬具、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

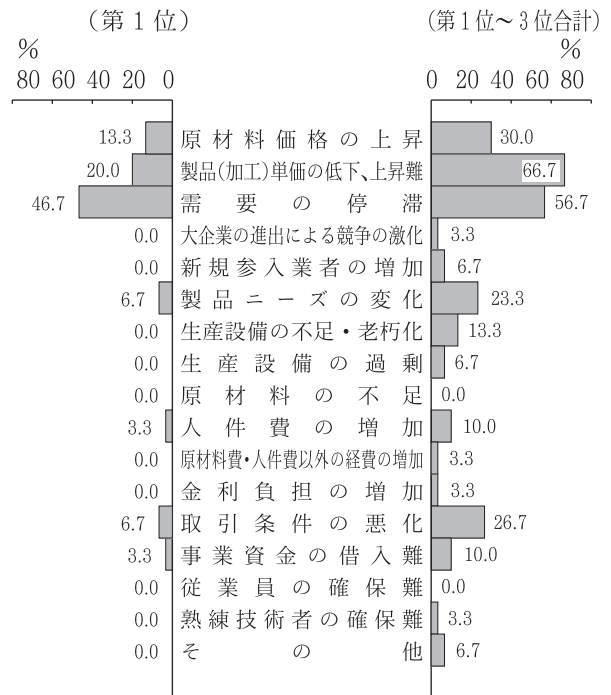


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(46.7%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(20.0%)、「原材料価格の上昇」(13.3%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(66.7%(複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(56.7%)、「原材料価格の上昇」(30.0%)、「取引条件の悪化」(26.7%)、「製品ニーズの変化」(23.3%)と続いている。

図1-5 経営上の問題点



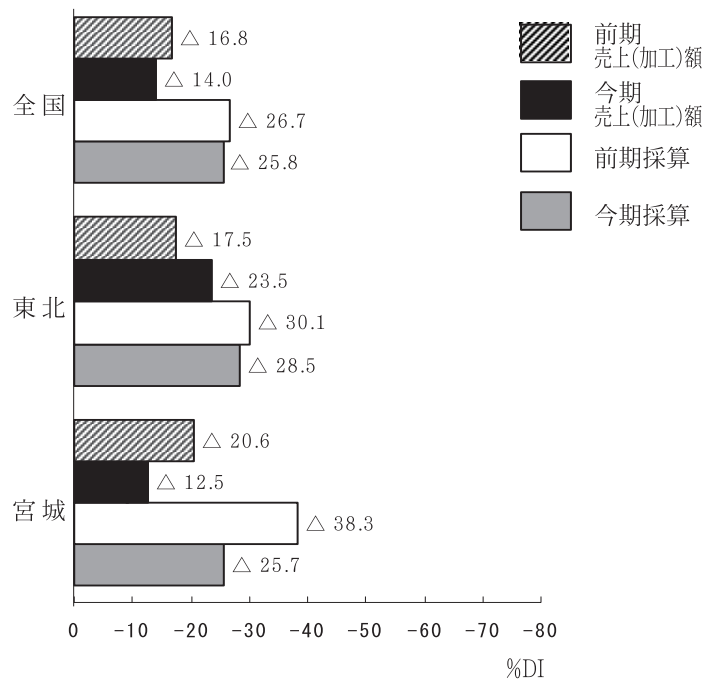
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期は宮城の売上(加工)額DIが全国・東北を下回ったが、今回は売上、採算、ともに全国・東北を上回った。

売上(加工)額DIは、東北が悪化したが、全国、宮城は改善し、特に宮城の改善幅が8.1ポイントと大きかった。

また、採算DIにおいては全国、東北、宮城ともに改善し、宮城においては12.6ポイントと改善幅が大きく、全国との乖離幅が解消された。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



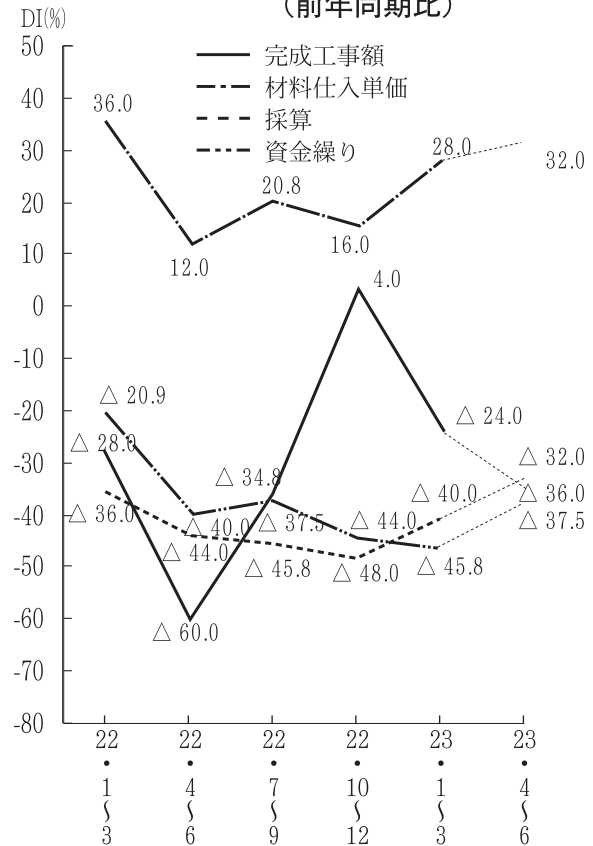
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは△24.0（前期4.0）で28.0ポイントと大幅に悪化した。しかしながら採算D Iは△40.0（前期△48.0）と8.0ポイント改善した。

なお、資金繰りD Iは△45.8（前期△44.0）と1.8ポイント悪化し、材料仕入単価D Iも28.0（前期16.0）と12.0ポイント上昇した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



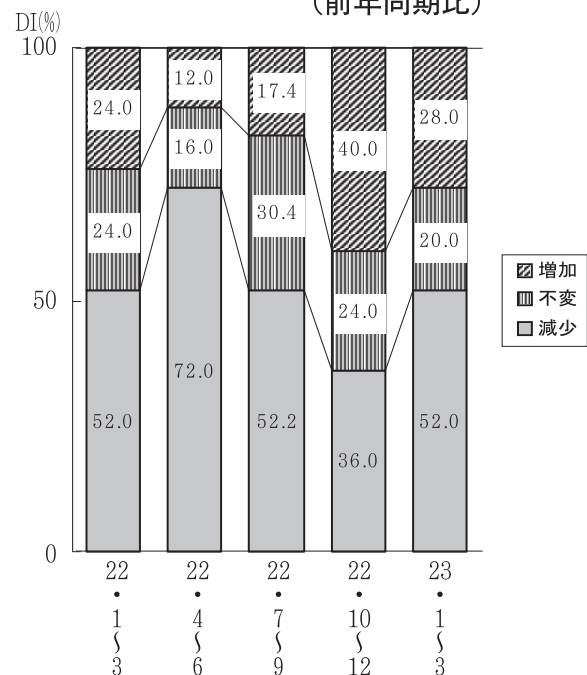
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の28.0%（前期40.0%）であり、12.0ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は52.0%（前期36.0%）と16.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△24.0（前期4.0）と28.0ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

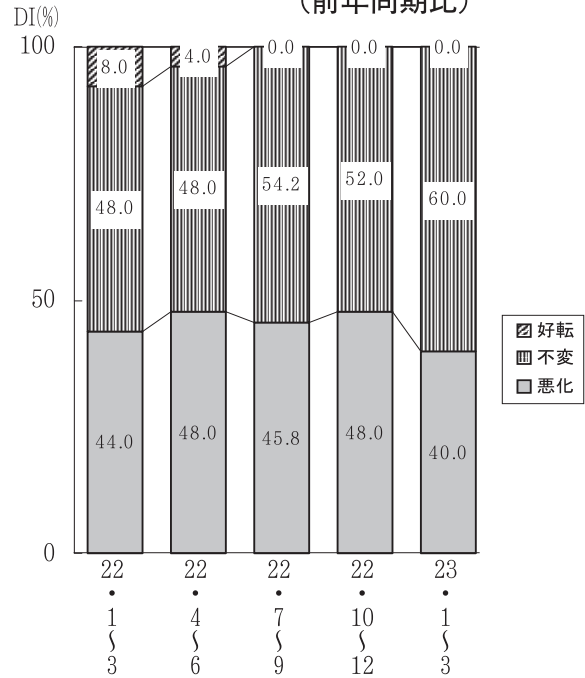


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は前回同様ゼロであり、「減少・悪化」と回答した企業は全体の40.0%(前回48.0%)であり、8.0ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△40.0(前期△48.0)となり、前期比8.0ポイント改善した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

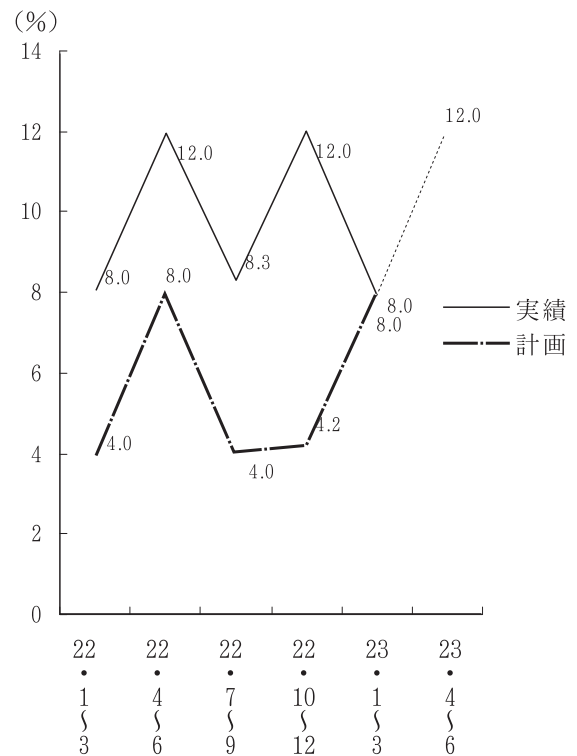


(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の8.0%(前期12.0%)で4.0ポイント減少し、その設備内容は、建物、OA機器であった。

来期に設備計画している企業は、全体の12.0%と若干増加し、その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他を計画している。

図2-4 設備投資の状況

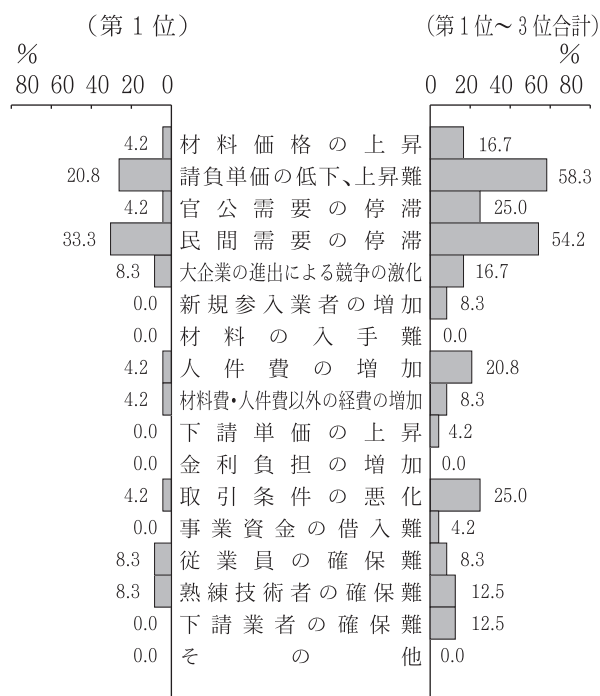


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」(33.3%)、次いで「請負単価の低下、上昇難」(20.8%)、「大企業進出による競争の激化」と「熟練技術者の確保難」と「従業員の確保難」とが8.3%と同率で並び続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「請負単価の低下、上昇難」(58.3% (複数回答以下同じ))、「民間需要の停滞」(54.2%)、「取引条件の悪化」と「官公需要の停滞」が25.0%と同率で続いた。

図2-5 経営上の問題点

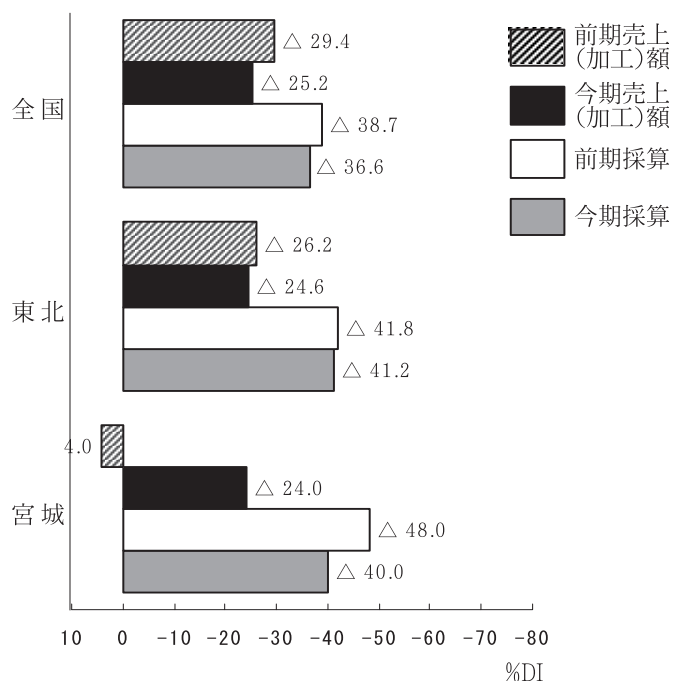


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

完成工事(請負工事)額DIは全国・東北が若干改善傾向を見せているが、宮城は28.0ポイントと大きく悪化し前期の大幅な改善幅が解消され、DIは△24.0となり、全国、東北と平準化された。

採算DIは、全国、東北、宮城ともに改善し特に宮城の改善幅が大きかった。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



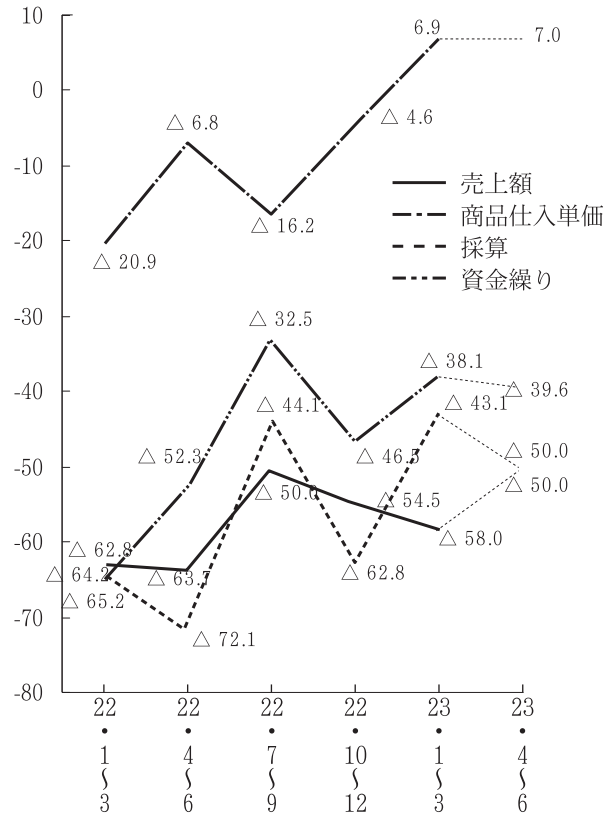
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは△58.0（前期△54.5）で3.5ポイント悪化し、商品仕入単価DIも6.9（前期△4.6）で11.5ポイント上昇した。

しかしながら、採算DIは△43.1（前期△62.8）で19.7ポイントと大幅に改善し、資金繰りDIも△38.1（前期△46.5）と8.4ポイント改善し、リーマンショック後低迷を続けていた景況DIも△40.0となり、改善の兆しが見え始めた。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



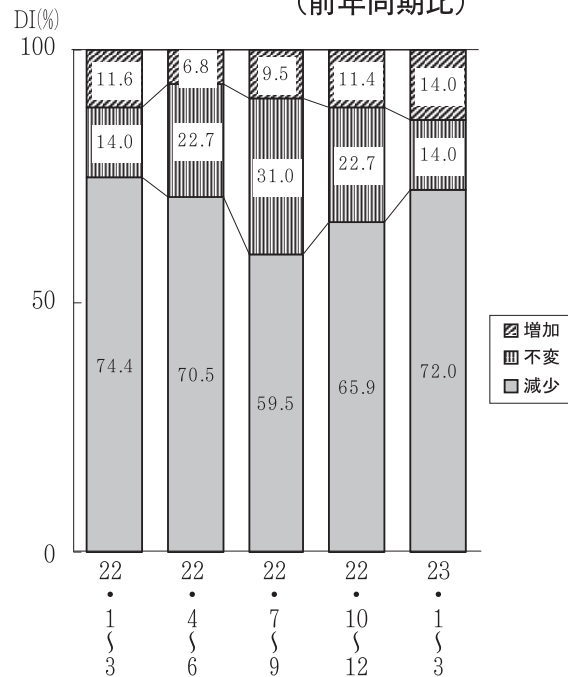
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.0%（前期11.4%）と2.6ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の72.0%（前期65.9%）と6.1ポイント増加した。

その結果、売上額DIは△58.0（前期△54.5）と前期比3.5ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

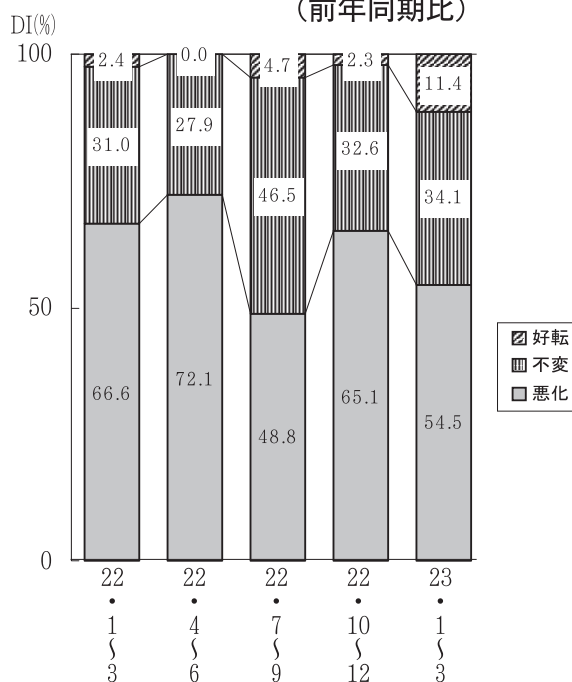


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.4%（前期2.3%）と9.1ポイント増加し、「悪化・低下」の回答は全体の54.5%（前期△65.1%）で10.6ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△43.1（前期△62.8）となり、前期比19.7ポイント改善し全国D I △47.5を4.4ポイント上回った。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

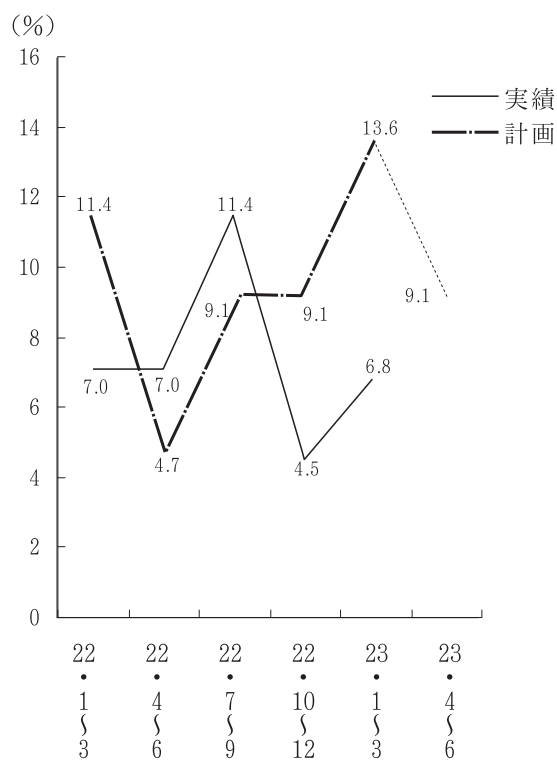


(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の6.8%（前期4.5%）で2.3ポイント増加し、その内容は、店舗、販売設備、OA機器、であった。

来期に設備計画している企業は9.1%で、その内容は、店舗、車両運搬具、付帯施設、OA機器を想定している。

図3-4 設備投資の状況

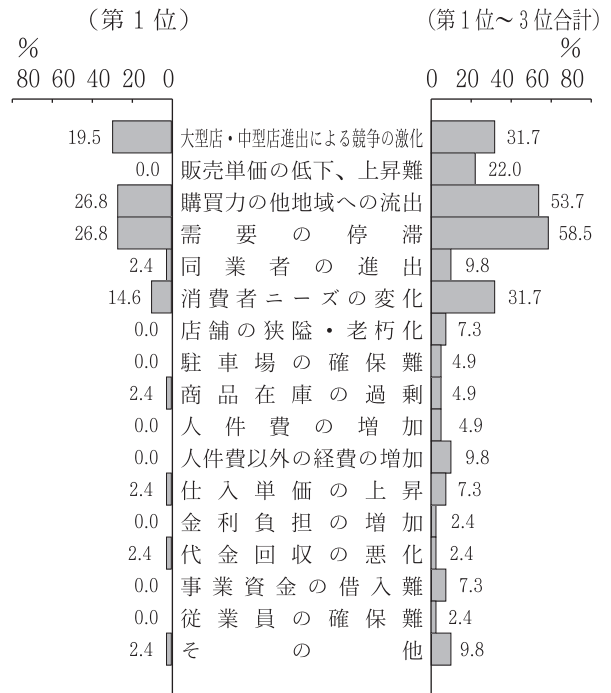


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」と「購買力の他地域への流出」が同率の26.8%、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(19.5%)、「消費者ニーズの変化」(14.6%)、と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」(58.5% (複数回答以下同じ))、次いで「購買力の他地域への流出」(53.7%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「消費者ニーズの変化」が同率の31.7%と続いた。

図3-5 経営上の問題点

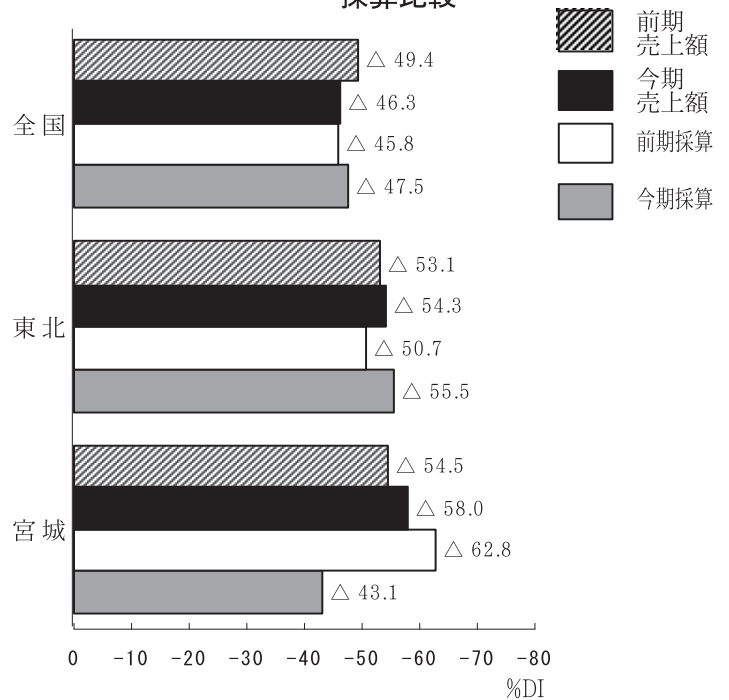


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国が改善し、東北、宮城は悪化しマイナス幅を拡大した。

採算DIについては、全国、東北が悪化したが、宮城は19.7ポイント改善し、全国よりも4.4ポイント上回り△43.1となった。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



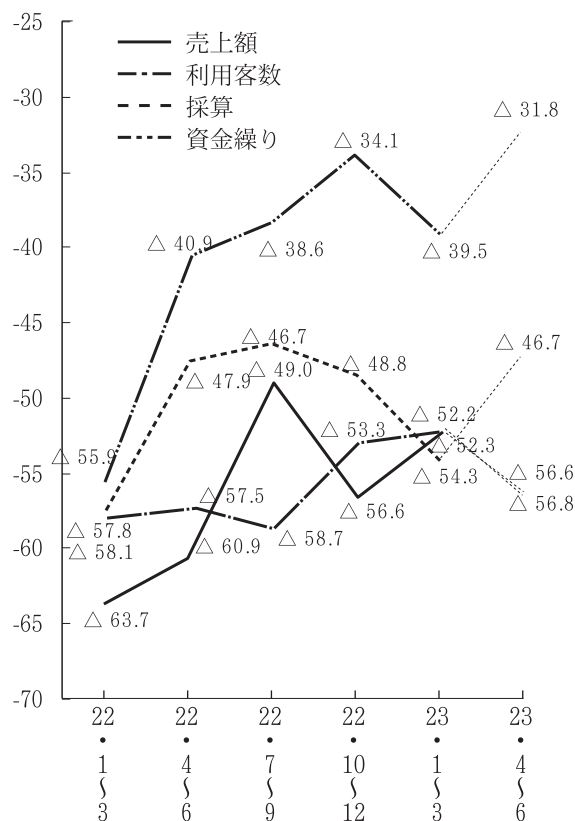
(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額D Iが△52.3(前期△56.5)で4.2ポイント改善し、利用客数D Iも△52.2(前期△53.3)で1.1ポイント改善した。

しかしながら、資金繰りD Iは△39.5(前期△34.1)と5.4ポイント悪化し、採算D Iも△54.3(前期△48.8)と5.5ポイント悪化させており、宮城は依然として回復の足取りが重い状況となっている。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



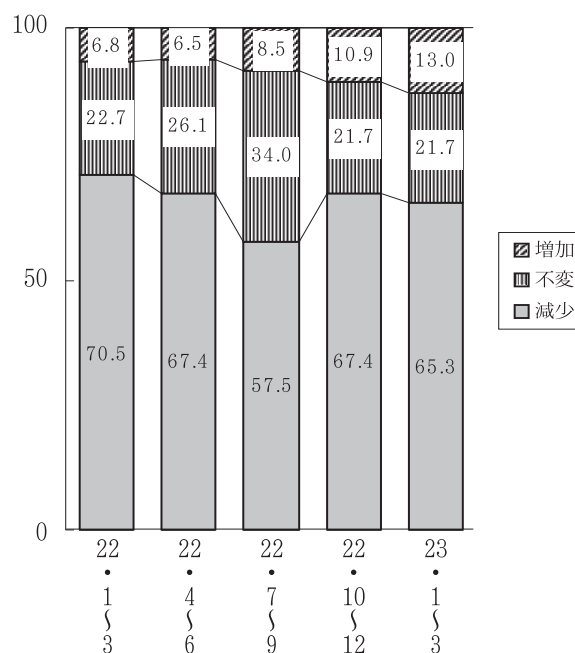
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の13.0%(前回10.9%)で2.1ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は65.3%(前回67.4%)で、2.1ポイント減少した。

その結果、売上(収入)額D Iは△52.3(前回△56.5)で前期比4.2ポイント改善した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

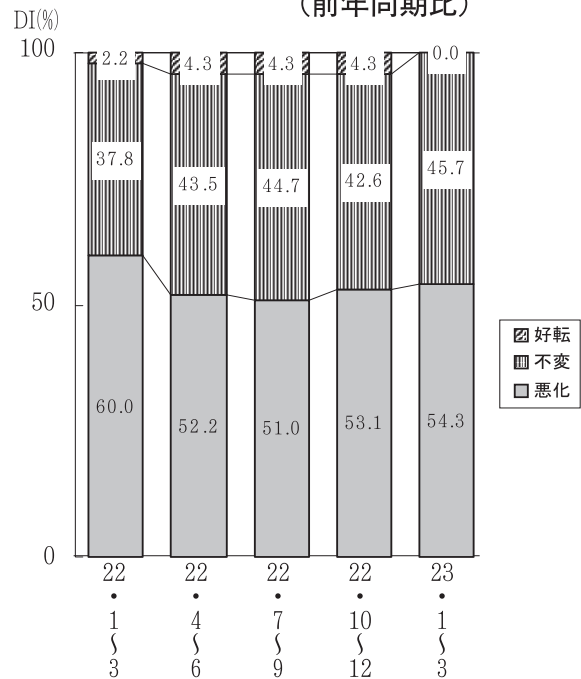


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業はなく(前回 4.3%)で 4.3 ポイント減少し、「低下・悪化」と回答した企業は 54.3%(前回 53.1%)と、1.2 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△54.3(前回△48.8)となり、前期比 5.5 ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



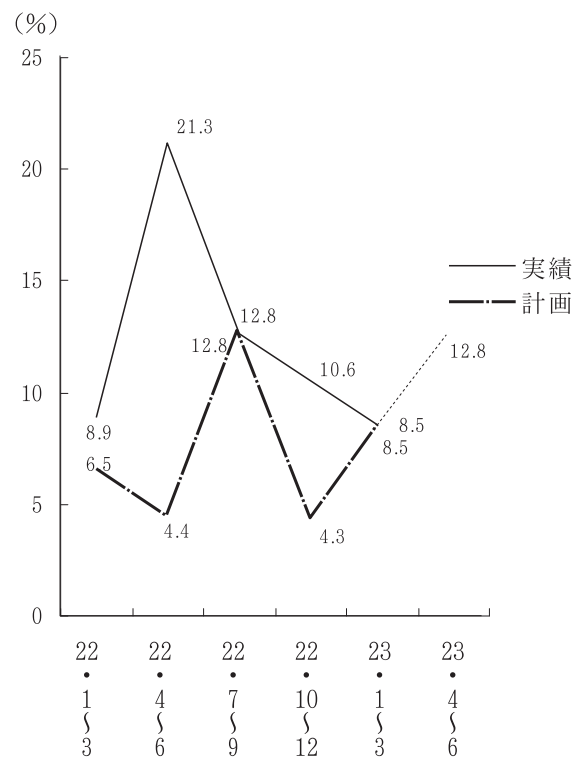
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の 8.5%(前期 10.6%)で 2.1 ポイント減少した。

その設備内容は、サービス、車両運搬具、OA機器、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、12.8%であり、その内容も、建物、サービス、車両運搬具、付帯設備、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

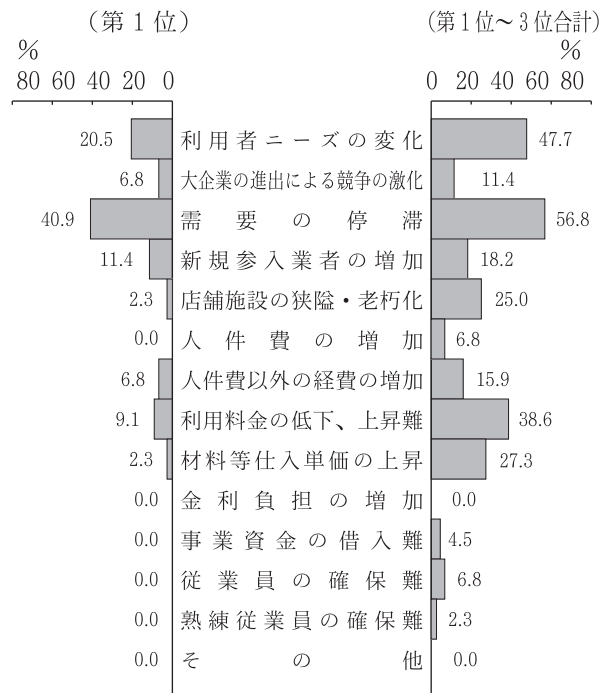


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(40.9%)
次いで「利用者ニーズの変化」(20.5%)、
「新規参入業者の増加」(11.4%)と続いで
いる。

重要度第1位から第3位合計では、「需要
の停滞」(56.8%(複数回答以下同じ))次い
で、「利用者ニーズの変化」(47.7%)、「利
用料金の低下・上昇難」(38.6%)、「材料等
仕入単価の上昇」(27.3%)、「店舗施設の狭
隘・老朽化」(25.0%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国が悪化したが、東北、
宮城はいずれも改善し、全国と宮城を比較す
ると乖離幅が△10.9ポイント(前回△18.8ポ
イント)と7.9ポイント縮小した。

採算DIは、全国、東北、宮城いずれも悪
化し、宮城の悪化幅が若干大きく全国との乖
離幅は△12.0ポイント(前回△9.4ポイント)
と2.6ポイント拡大した。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較

